

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2025年 第9週（2月24日～3月2日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～ 手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎 前週と同水準で推移」

第9週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,785例であり、前週比3.2%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、水痘の順で、定点あたり報告数はそれぞれ10.61、1.82、0.94、0.25、0.22である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比2%減の2,059例で、南河内14.31、大阪市南部13.33、中河内12.74、三島11.06、北河内10.40であった。

RSウイルス感染症は1%減の354例で、大阪市北部3.15、南河内3.13、北河内2.84である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は21%減の183例で、大阪市南部2.11、北河内1.16、泉州1.15であった。

咽頭結膜熱は2%増の49例で、南河内0.56、中河内0.47、大阪市西部0.40である。

水痘は8%増の43例で、豊能・大阪市南部0.50、中河内0.32であった。

インフルエンザは2%増の527例で、定点あたり報告数は1.75である。南河内3.58、北河内2.76、大阪市西部2.40、中河内2.20、大阪市東部2.05であった。北河内、中河内、南河内、大阪市東部、大阪市南部では増加していた。

新型コロナウイルス感染症は8%減の862例で、定点あたり報告数は2.85である。堺市3.55、北河内3.51、南河内3.42、泉州3.33、中河内2.77であった。

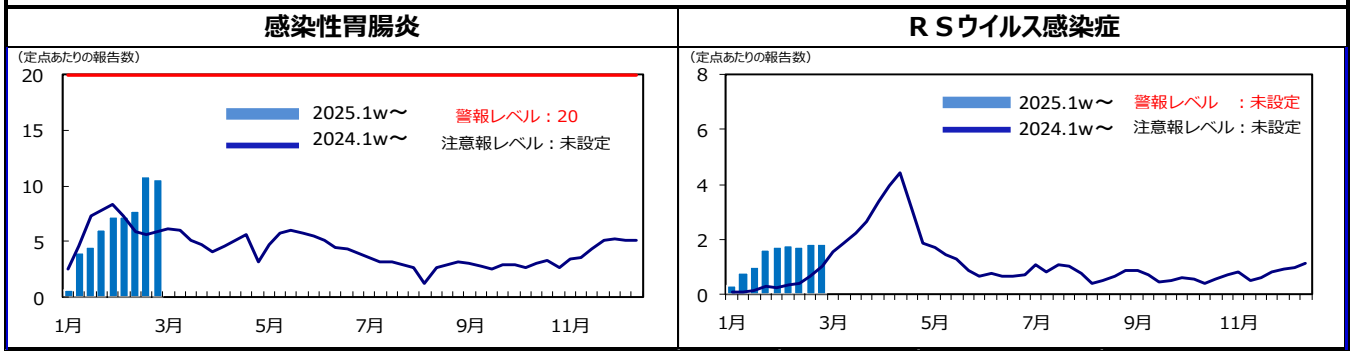


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2025年 第9週2月24日～3月2日）

第9週の順位	第8週の順位	感染症	2025年 第9週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2024年 第9週の 定点あたり 報告数	2025年第9週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	10.61	2%減	5.92	10-14歳_14%
2	2	RSウイルス感染症	1.82	1%減	1.02	1歳未満_38%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.94	21%減	3.06	10-14歳_16%
4	5	咽頭結膜熱	0.25	2%増	0.42	1歳_39%
5	6	水痘	0.22	8%増	0.13	9歳,10-14歳_21%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	1.75	2%増	8.95	10-14歳_25%
参考		新型コロナウイルス感染症 (COVID-19定点報告疾患)	2.85	8%減	4.79	80歳以上_14%

詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症患者の発生状況について(大阪府)』の情報をご覧ください。

詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症(大阪府感染症情報センター)』の情報をご覧ください。

第9週のコメント

2024年は、速報値で大阪府では112例、全国では2,419例の報告がありました。

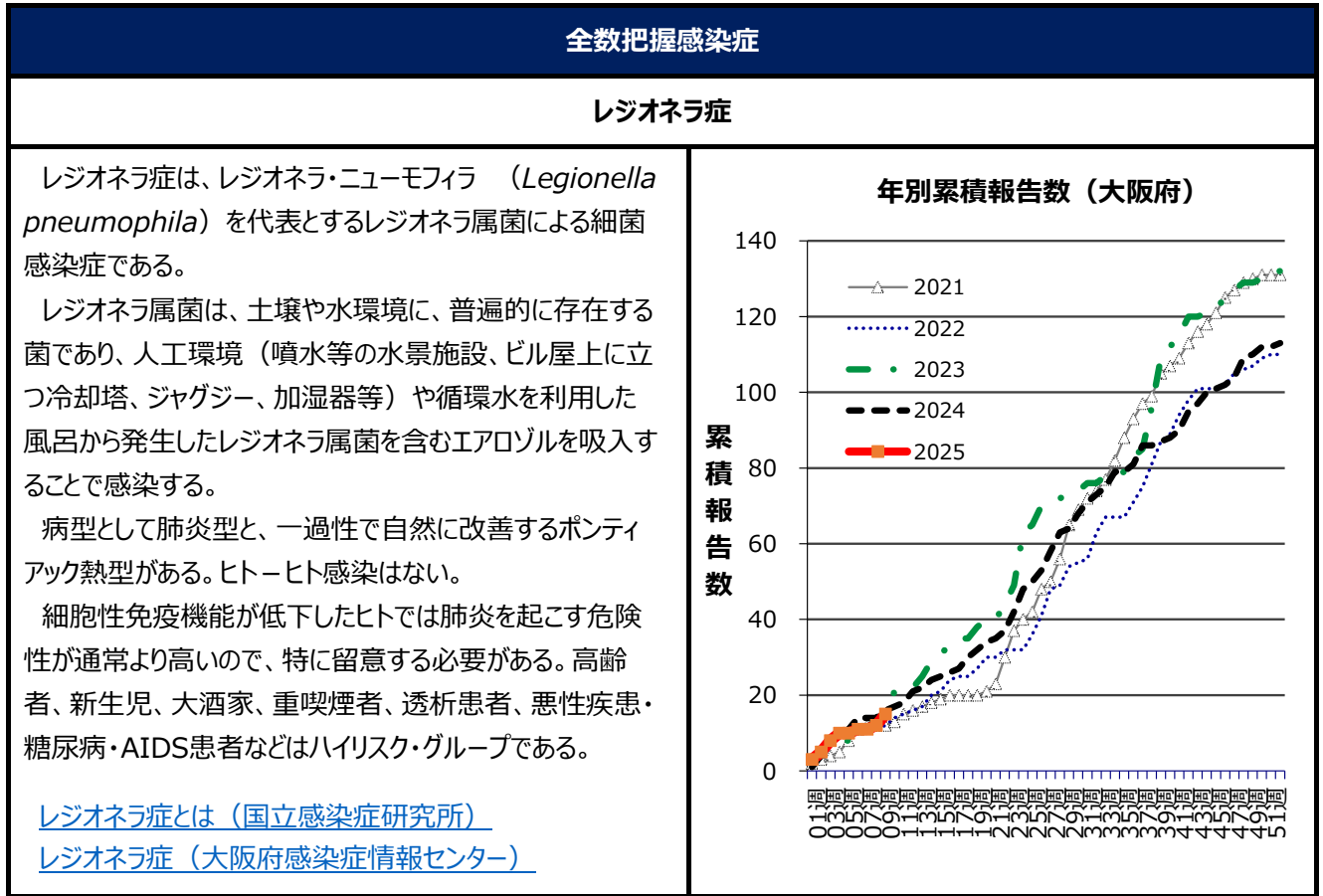


表 2. 大阪府全数報告数（2025年 第9週2月24日～3月2日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
4類感染症	E型肝炎	1								1	1
	A型肝炎	1								1	1
	レジオネラ症（肺炎型）	2								2	15
	レジオネラ症（ポンティアック熱型）	1		1							
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	5						4		1	20
	急性脳炎	1								1	4
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1			1						30
	後天性免疫不全症候群	1								1	22
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1						1			10
	侵襲性肺炎球菌感染症	7	1		1		1	1	1	2	85
	梅毒	8		1				1	1	5	268
百日咳	23			5	1	4			9	4	201
結核 (2024年12月分)	結核 新登録患者数：73名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 23名) (府内累積報告数 1,118名、内 肺・喀痰塗抹陽性 423名)										

(2025年3月4日 集計分)